

『夢に向かって始めた剣道』

鳥取県

鳥取翔武館

小学6年 小渊媛子

私が剣道に入った理由は将来の夢だった。

私の将来の夢は「人を助け守る仕事」につくことだ。消防や救急、警察など様々だが特に警察官になりたいと思っていた。剣道を始めたのは、三年生の七月。警察官になるには体力が必要だと思い両親に、

「剣道をやりたい。」

と、頼んだ。

そして、見学に行くことになった。その見学からが夢への第一歩となった。見学のとき少しだけ竹刀をふったり、すり足を教えてもらったりもした。少しずつ教えてもらううちに楽しくなってきた、剣道を始めた。入ってすぐは竹刀の持ち方やすり足のやり方、礼法などの練習をした。最初は楽しくていつもが楽しみだった。けど今はちがう。防具をつけたけいこは最初とはちがいきつばかりでなくハードで厳しいからだ。自分より上手な人に面を打たれるといたいし、こてやどうがはずれたらもっといたいし。かかりげいこでは、竹刀をとばされ、おされてこけるばかりでくやしいといたいという言葉しか浮かんでこない。それでも、今も剣道が続けている。それはなぜか。お父さんやお母さんが応援してくれて、友達もがんばれといってくれるからだ。それに、試合で勝って入賞した時は、すごくうれしくて、きついけいこだったけどやって良かったなと思えるからだ。そして、もう一つは、夢をあきらめていないからだ。まだ、「人を助け守る仕事がしたい。」という気持ちを捨てていないからだ。応援があつて、夢もある。だからこそ、またがんばろう、次もがんばろうとなる。そして、くやしくていたくてもだいじょうぶと自分に言い聞かせている。

夢がかなった時ぐらいにうれしかったことが一つだけあった。それは、今年の夏全国大会に出場できたことだ。昨年わたしのチームは一回戦で敗れてしまって全国大会出場がかなわなかった。だから、それに向けて何をするかを話し合い、一人一人が全国大会に向けての目標をつくった。その日の次のけいこからはさらに厳しくてハードなものになった。それでもみんなが耐えてがんばった。そしてわたしも、みんなといっしょに辛くてもくやしくてもがんばった。だからこそ全国大会に出場できたところもあり、それ以上にチームのみんなと協力できたからだ。チームで一つになって戦ったから、県大会で準優勝し、全国大会に出場できた。今は、一月の大会に向けて技を増やしたり、試合でその技を使ったりできるようになるために練習している。さらに上にある夢にたどりつくことができるようになるためにも日々の練習を重ねている。

こうして、辛くても苦しいけいこでも家族や友達が応えんしてくれて、さには自分が目指している場所があるからこそ続けることができる。また、がんばることもできる。わたしは、夢をかなえるためにもさらに努力をし、がんばり続けていきたい。それが自分の夢に近づいていくための一歩だから。